

道徳科における指導方法の例（たたき台）（案）

○道徳科の指導方法について（教育課程企画特別部会 論点整理（案）（抜粋））

特に、後者の「考え、議論する」道徳科への質的転換については、子供たちに道徳的な実践への安易な決意表明を迫るような指導を避ける余り道徳の時間を内面的資質の育成に完結させ、その結果、実際の教室における指導が読み物教材の登場人物の心情理解のみに偏り、「あなたならどのように考え、行動・実践するか」を子供たちに真正面から問うことを避けてきた嫌いがあることを背景としている。このような言わば「読み物道徳」から脱却し、問題解決型の学習や体験的な学習などを通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、実践へと結び付け、更に習慣化していく指導へと転換することこそ道徳の特別教科化の大きな目的である。

○指導方法の具体例について（これまでの会議資料などを基に作成）

	読み物教材の登場人物の心情理解中心の学習	問題解決的な学習	体験的な学習（役割演技など）
ねらい	教材の登場人物の心情を多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的価値の自覚を深める。	問題解決的な学習を通して、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。 (原理、根拠、適用)	役割演技などの体験的な学習を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。 (原理、根拠、適用)
具体例	導 入	①問題の発見 教材や日常生活から道徳的な問題を見つける。	①資料の提示 資料の概要の説明や登場人物の確認などを行う。
	展	②問題の探究 発見した問題について、ペア、グループなどで、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて、多面的・多角的に考え、議論を深める。	②道徳的価値を含む問題場面の提示 ペア・インタビューなどを通して、登場人物の心情を理解し、何が問題となっているのか、状況を把握する。
	開	【教師の主な発問】 ・ベンチの上から何度も何度も紙飛行機を飛ばしているときの気持ちはどんなだったでしょう。 ・女の子は <u>どんな気持ちで</u> ベンチに座ろうとしていたのでしょうか。 ・ <u>どんなことを考えて</u> 、たかしとてつおは「はっ」としたのでしょうか。	③再現の役割演技 グループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の心の葛藤を理解するとともに、取り得る行動を多面的・多角的に考える。
	終 末	③振り返り 本時の授業を踏まえ、各自で自分の生活を振り返り発表する。	④新たな場面の提示 再現の役割演技で学んだことを一般化するため、同様の新たな問題場面を提示し、グループで何が問題となっているかを考え、取り得る行動を多面的・多角的に考える。
実践校	④まとめ 教師による説話。	③問題の解決 問題の探究を踏まえ、問題に対する自分なりの考えや解決方法を導き出す。	⑤解決の役割演技 新たに提示された場面について、考えた取り得る行動を役割演技をして再現し、解決を図る。
	④まとめ 本時を振り返り、本時で学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。	④まとめ 本時を振り返り、本時で学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。	⑥まとめ 感想を聞き合ったり、ワークシートに記入したりして、自分の取り得る行動について振り返る。
	○世田谷区立池之上小学校第2学年 教材：「黄色いベンチ」 (わたしたちの道徳1・2年：文部科学省)	○東京学芸大学附属竹早小学校など 教材：「スイミー作戦」「ガンジー作戦」など (新版ゆたかな心：光文書院)	○福島県郡山市立明健中学校 教材：「島耕作 ある朝の出来事」 (中学生の道徳1「自分を見つめる」：あかつき)

	読み物教材の登場人物の心情理解中心の学習	問題解決的な学習	体験的な学習（役割演技など）
指導方法の効果	<ul style="list-style-type: none"> 特に低学年の発達段階では、<u>道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的であると考えられる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効である。</u> <u>他者と対話や協同しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性がある。</u> <u>問題解決の先に新たな「問」が生まれるという問題解決プロセスに価値がある。</u> <u>考え、議論する中で図られるコミュニケーション自体に道徳的価値がある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>心情と行為とをすり合わせるにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効である。</u> <u>体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能である。</u> <u>実際の行為の難しさやその対処法を考え、議論する中で図られるコミュニケーション自体に道徳的価値がある。</u>
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <u>児童生徒の発達の段階を考慮せず、授業をねらいとする道徳的価値に収束させ、確認させることに終始した指導となっていないか。</u> 	<p>以下の内容について、指導のねらいの設定や指導計画の作成の際にしっかりと吟味する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>多面的・多角的な思考を促す「問」が設定されているか。</u> <u>上記「問」の設定を可能とする教材が選択されているか。</u> <u>議論し、探求するプロセスが重視されているか。</u> 	<p>以下の内容について、指導のねらいの設定や指導計画の作成の際にしっかりと吟味する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>心情と行為との齟齬^{そご}や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。</u> <u>上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。</u>
評価	<ul style="list-style-type: none"> 観察や会話による方法、面接による方法、質問紙による方法、作文やノートなどの記述による方法など、それぞれの特徴を生かして幾つかの方法を併用して道徳性を理解し把握するための資料を収集、蓄積。 発言や記述の背後にある子供の思いや変容を多くの目で読み取ることも重要。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>考え、議論する道徳への質的転換により、パフォーマンス評価、エピソードの蓄積による評価など、多様な評価方法を導入しやすくなる。</u> <u>子供自身による「話し合い」を評価することが考えられる。</u> 	